

令和8年8月1日号
544号



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



【学習内容】

回	期 日	内 容	講師（敬称略）
1	9/4（金） 午前10時～正午	〈開講式〉 人権教育推進講座「音楽を通して人権を 考える」	高崎市社会教育講師 Ryokei（りょうけい）
2	9/11（金） 午前10時～正午	食と健康 「バランスの良い食事とは」	高崎市社会教育講師 松原 祥子
3	9/18（金） 午前10時～正午	「ときの高崎市民之を建つ」音楽セ ンターの歴史・意義・価値を知る	1級建築士・飯沼直樹 鼻高公民館長・岡田勝義
4	10/2（金） 午前10時～正午	地域学習「八幡の庄をかけぬけた武 将たちとその時代背景」八幡が日本 の首都になっていたかもしれない	高崎市社会教育講師 長井 和俊
5	10/16（金） 午前10時～正午	「知っておきたいサプリメントと薬 の話」 講義後に簡単な健康相談を 実施	高崎市薬剤師会より 2名
6	10/30（金） 午前10時～正午	地元理解講座「ドイツ人建築家ブル ーノ・タウトの少林山達磨寺での足 跡」異文化に早くに触れた鼻高地区	少林山達磨寺住職 広瀬 正史
7	11/20（金） 午前10時～正午	「歴史を変えた小さな石器 相沢 忠洋と岩宿遺跡」	高崎市社会教育講師 横倉 興一
8	11/27（金） 午前7時30分 ～午後4時予定	館外研修：岩宿博物館を訪ねる	岩宿博物館の解説員
9	12/4（金） 午前10時～正午	いきいき健康体操 運動不足を解消し、日常生活を快適 に過ごすための体力維持を図る	高崎市社会教育講師 吉田 大祐
10	12/11（金） 午前10時～正午	音楽鑑賞：ギターとボーカルの世界 音楽でひと時の安らぎを…♪ 〈閉講式〉	演奏者 伏田 弘治

《参加者募集》

毎日の生活を、活き活きと心豊かに過ごすために 地域で生涯学習
《鼻高地区》活き活き セミナー 開講
盛りだくさんの内容で構成された学習講座です。全10回通して受講し
ていただく講座ですが無理のない範囲で参加してください。（館外研修
は希望者のみ）。なお途中からの参加はできませんのでご了承ください。



8月の休館日

8月11日（火） 山の日
8月13日（木）～
15日（土）
夏季臨時休館日



【期日】令和8年9月4日～
12月11日、全10回、毎回
金曜日
【時間】午前10時～正午
※館外研修の詳細は別途
連絡。
【場所】鼻高公民館・2階講
義室、その他
【対象】一般（鼻高地区住民
優先）、30人程度
【費用】無料（但し館外研修
参加者は交通費、入館料
が必要）
【用意する物】筆記用具、
12月4日は運動のできる
服装。
【申込み】8月3日（月）
午前9時から鼻高公民館
で受け付けます。 ☎ 32
2・9100
※予定につき内容が変更
になる場合があります。

裏面もごらんください。



鼻高の四季

Ⅱ 写真で綴る鼻高の宝 ④⑥

中山道 皇女和宮降嫁の行列 その1

私どもの住む鼻高の端に碓氷川が流れています。その川に沿って街道・国道18号線(中山道)が一本の糸のように通っています。この中山道は江戸幕府が五街道の一つとして整備し道路網を全国に巡らせたものです。また、この付近は古来より東山道や鎌倉上道等通過し、道路網の結末点として交通の要衝でもあった場所です。鼻高の隣町板鼻は地域の中心として賑わいのある所でもありました。これらの街道を通じて人・もの・文化・情報・事件などが行き交います。

歴史上この街道を通過したもので最大規模だったのは何であつたかと思うと、新田義貞の5000騎の鎌倉幕府遠征軍も壮観と思えるが、私の個人的私見では幕末の皇女和宮が江戸に降嫁した時の行列だったと考えます。

総延長50^キにも及び通過に3日も要したとの記録もあります。昔の人の話によると昭和初期まで八幡大門付近は八幡様の参道入口であり、また中山道の茶店(今でいうドライフイ

ン・道の駅)などもあって、旅人の休み場として少しばかりは賑わいのある所だったと聞きます。

鼻高の高台から静かに目をつぶり164年前の世界に迷走を膨らませてみると、この八幡大門の赤い鳥居付近を延々と和宮の行列が東に向かって通過している様子が目に浮かびます。

板鼻を出発し、ここを通過していった和宮行列について、鼻高から目視できる場所で現にあった事柄として皆さんと一緒に深読みしてみましょう。

皇女和宮、江戸幕府へ降嫁

時は江戸時代末期です。

日本国中は開国か尊王攘夷かで二分され、前年には水戸浪士による桜田門外の変等も起こり、国内外が混沌としている時代でもありました。その時、公武を合体させ国難を乗り切ろうという策があり、その策略実現の象徴として、時の孝明天皇の異母妹であつた和宮を第14代將軍家茂に降嫁させようというものでした。その花嫁行列は、京都方1万人、江戸方15000人、京都からの通し人足4000人という大集団の通行伝馬でした。降嫁に際して和宮の

御歌は「惜しまじし国と民

のためならば 身は武蔵野の露と消ゆとも」でした。



江戸降嫁の行列

京都から江戸までの中山道134里(約544^キ)を2万5000人を超える人馬が25日間、1日平均5・7里(22・8^キ)の往来でした。群馬付近では、11月9日に軽井沢で小休みした後、難所碓氷峠を越えられ、夕刻には横川の坂本宿に到

着したそうです。10日は坂本を出発され、松井田で昼、安中で小休み、そして板鼻宿の本陣木島家に到着し、宿泊されました。

11日に板鼻を出発し高崎で小休み、倉賀野で昼、新町で小休み、その日は本庄で泊まれたとのことでした。

総勢2万5000人超の行列がどのくらいのものだったのでしょうか? 歴史書の記述を整理すると、こう読み取れます。人員を整理させ間隔を無しにして縮めると、直線で3^キぐらいだったのではと推測されるということです。この人員・馬車等が行列として歩いてゆっくり進むとなるとその距離は凡そ50^キにも及んだのではないかと云われます。先頭がその日の宿泊地についても後発隊は出発もできずに前日の宿泊地にすら到着しない状態が想像できます。一行が通過するのに3〜4日要したと云われています。

(次号に続く)